

第3回 磯辺地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成20年7月31日(木) 10時00分～12時00分

2 場 所 磯辺地域ルーム(磯辺第一中学校内)

3 出席者

(1) 委 員

* 欠席委員：岡村委員、都委員、今井委員、住友委員

(2) 事務局

山崎課長、古館主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 7名

4 平成20年度磯辺地区学校適正配置地元代表協議会委員について

磯辺第一中学校評議員代表として近藤氏が確認された。

5 議題

(1) 学校適正配置の必要性について

(2) 今年度の推計による磯辺地区の小・中学校の状況について

(3) 次回開催日時・場所について

6 会議資料

(1) 資料1 学校の適正規模について

(2) 資料2 学校の適正規模について 追加資料

・適正規模化に伴う変化について～花島小学校～

・小学校の学校規模別の少人数学級と少人数加配について

(3) 資料3 花島小学校の開校の経緯について

(4) 資料4 今年度の推計による磯辺地区の小・中学校の状況について

(5) 資料5 磯辺地区学校適正配置地元代表協議会委員からの意見・要望等

7 議事の概要

(1) 学校適正配置の必要性について

資料1「学校の適正規模について」、資料2「学校の適正規模について 追加資料」及び資料3「花島小学校の開校の経緯について」をもとに事務局より説明があり、質疑応答を行った。

(2) 今年度の推計による磯辺地区の小・中学校の状況について

資料4「今年度の推計による磯辺地区の小・中学校の状況について」をもとに、事務局より説明があり、質疑応答を行った。

(3) 次回開催日時・場所

10月6日(月)午前10時00分から12時00分、磯辺地域ルームにて開催することとした。

8 発言要旨

(1) 学校適正配置の必要性について

村上委員

花島小の校舎は花見川第四小を改修し、その改修工事中、子どもたちは花見川第五小にいたということで間違いないか。また、改修した校舎の耐震補強は行われているかお聞きしたい。

事務局

新校舎は花見川第四小を改修して使用することとし、校舎の改修工事中は花見川第五小を使用していた。改修工事については、耐震補強及び内部の大規模改修を行った。

志村委員

花島小では、統合後は教員の数に余裕ができ、少人数指導を行えるようになったとあるが、教員数は大幅には増えていないように思う。統合した場合は、継続して教員の増置はしてもらえるのか。

事務局

統合前の花見川第四小の教員は、学級担任のみで、少人数指導やチームティーチングは行えなかった。統合後1年目は統合増置教員が2名配置され、2年目には統合増置教員は1名になったが少人数加配教員を1名配置できたので、増員は2名のままであった。統合増置教員は、統合による加配教員なので継続するものではないが、児童数・生徒数が多くなれば少人数加配が可能になる。

大浦委員

花島小は隣り合った学校の統合だったので、児童の交流も統合前から進んでいただろうし、立地条件がよかったのではないかと。磯辺地区とは状況が異なるのではないかと。

事務局

第一次学校適正配置において統合の合意がなされたのは、花島小だけである。立地条件のよさが要因の一つであったのは確かだろう。

近藤委員

適正規模になったことで小規模校のデメリットが解消されたようだが、逆に小規模校のメリットがなくなったことはなかったのか。統合による悪い面はないのか。

事務局

小規模校だからといって学級の人数が少なくなるとは限らないが、少人数学級になる場合が多い。そうした小規模校のメリットは、教員の目が学級全体に行き届き、きめ細かな指導が行えるということであろう。統合後も、小規模校のメリットであるきめ細かな指導を可能にしていくために努力している。今後も、どのようなフォローができるか考えていきたい。

村上委員

花島小に防災備蓄庫は設置したのか。

事務局

防災備蓄庫は、千葉市全体のバランス等に配慮しながら市民局の総合防災課が指定している。もともと花見川第四小、第五小にはなく、花島公園の中にある。

木下委員

過去に千葉市において、離れている学校同士が統合した例はないのか。

事務局

千葉市の統合校は、花島小のみである。

石毛委員

花島小の統合増置教員は、1年目に2名、2年目に1名配置されていたということだが、保護者からの要望により、配置期間が経過した後も継続して配置してもらうことはできないのか。保護者からもう少し配置を続けてほしいという希望があった場合には、柔軟に対応してもらえるのか。

事務局

統合に伴う環境の変化等に対応するため、統合校へは他の学校よりも優先的に教員を配置している。統合に伴う教員等の配置については、「学校適正配置実施方針」の中で、学校の実情を踏まえ、必要な場合には増置教員・非常勤職員等を配置するように示している。花島小は少人数研究指定校となり、統合3年目にも少人数加配教員が配置された。教員の配置については、学校の状況を勘案しながら検討していきたいと考えている。

松岡委員

今年度の花島小の教員の配置はどのようになっているのか教えていただきたい。また、磯辺地区の学校が研究指定校になる場合もあるのか。

事務局

今年度の花島小には、統合増置教員は配置されていないが、少人数加配教員が1名配置されている。県との協議の結果、特別に配置された。磯辺地区においても、研究指定校への指定を含め、同様の対応が行われる可能性もある。

吉岡委員

「よい学校」というのは、学校の規模や通学距離ではなく、教育の質が高い学校ということだろう。「よい学校にしよう」という気持ちが大切である。この協議会では、学校の規模云々の話ではなく、今後の磯辺地区の学校のあり方について話し合っていたきたい。少人数学級がよいとか、もっと人数のいる学級がよいといった議論は尽きない。次に進んではどうか。(教育委員会が)磯辺地区にだけ特別に対応してくれるということはない。「よい学校にしよう」という気持ちで、具体論に入っていきたい。磯辺地区の現状を考えて、具体的な議論をしていきたい。

(2) 今年度の推計による磯辺地区の小・中学校の状況について

事務局

- ・推計値は、住民基本台帳を基に現在の0歳児が学校に入学するまで（H26年度まで）を推計し、算出している。開発の要素が最も大きいのが、計画の事前協議が上がった開発しか推計には入れていない。
- ・平成21年度以降はあくまでも推計値なので、今後、開発の状況で増減はおきる。突然大規模な集合住宅が建設される場合等があるが、なるべく早く状況を把握し、対応していきたい。
- ・計画の事前協議が上がってきた、ニチロの跡地とブリリアの両マンションについては、推計に入れている。
- ・磯辺地区に特徴的なのは、県企業庁から土地を借用している学校があることである。校舎の耐震補強は未実施だが、比較的新しい学校なので問題はない。体育館については、今後市内の全学校で順次実施していく予定と聞いている。

村上委員

耐震補強について、建築保全課のデータがベースになっているのか。体育館の耐震補強がほとんどされていないようである。統合校がどこの校舎に決定しようとも、耐震補強を優先的に行っていただきたい。また、仮に統合した場合、教室数に余裕はあるのか。

藤岡委員

窓ガラスの地震への対応は終わっていると聞いているがどうか。

事務局

学校の耐震補強の状況については、学校施設課に聞いているが、その元となっているのは建築保全課のデータである。また、窓ガラスの地震への対応は終わっている。統合した場合の教室数に余裕はある。

大川委員

磯辺地区に特別支援担当教員がいないのはなぜか。現在、特別支援学級に通う子どもはいないのか。磯辺地区に特別支援学級がないのは気になる。

事務局

特別支援担当教員がいないのは、特別支援学級がないからである（磯辺四小の特別支援担当教員1名は、市立海浜病院内の院内学級の担当）。特別支援学級は、美浜区全体でバランスよく開設しており、十分に支援している。

村上委員

小学校高学年に英語を教えるプラスアルファの教員は配置されないのか。

事務局

今後の配置については教職員課等で検討している。現在、千葉市では小学校5、6年生に対してネイティブの教員が指導している。

大浦委員

保護者の方々が、統合の最大の問題点がどこにあると考えているかを伺いたい。

木下委員（磯辺第一小保護者会代表）

統合について保護者から意見が出るとしたら、通学距離が遠くなることへの不安や、少人数指導が可能な環境が本当に整うのかどうか、ということだろう。

西村委員（磯辺第二小保護者と教師の会代表）

磯辺第二小の保護者を対象にアンケートを行った結果「統合して通学路が変わることが不安である」「現在のアットホームな雰囲気のままのほうがよい」「学校規模が小さく人数が少ないのは子どもたちがかわいそう」といった意見が出た。保護者の中でも意見はまとまりきれていない。先生方が統合についてどのように考えているのか知りたいと思う。統合することにより、子どもたちに精神的な不安を与えないようにしたい。磯辺地区を活性化できる統合にしたい。

橋爪委員（磯辺第三小保護者会代表）

磯辺第三小へは、高洲・高浜地区からも通学する子どもがいる。最も心配なのは、幹線道路を越えて通学しなければならなくなった場合である。特に、小学校低学年の子どもたちが心配である。通学だけでなく、放課後や休日に、道路を越えて新しくできた友達に会いに行く場合もあり、安全確保についての不安が大きい。

石毛委員（磯辺第四小保護者と教職員の会代表）

磯辺第四小は磯辺地区の中央に位置するので、通学距離に関しては問題ないのではなかろうか。現在は少人数学級になっているので、授業中に先生の目が学級全体に行き届き、小規模校のメリットが大きいのではないか。小規模校のメリットを活かした統合となればよいと思う。小規模校のデメリットとして感じているのは、学級数が少ないので運動会では学級ごとに組分けができないことである。また、少ない人数で行う校舎の清掃も大変である。

松岡委員（高浜第二小保護者と教職員の会代表）

仮に中学校の統合が行われると、場合によっては磯辺地区の学校に通学できなくなってしまうということが不安である。中学校は現状通り磯辺地区の学校に通いたいという保護者が多い。現在通っている中学校が統合により無くなったとしても、「中学校の教育は磯辺地区で受けたい」という希望が多い。

相川委員（磯辺第一中学校保護者会代表）

推計の資料によると、生徒数は今後微増していくようではあるが、一昨年はバスケット部が廃部となったり、現在男子の文化部はなかったりと、部活動が限られている。学校規模が大きくなって生徒数が増えるのはよいことだと思う。磯辺第一中・第二中の学力に差はないようなので、統合することについては(学力面での)問題はないのではないかと。保護者の意見はあまりなく、子どもたちの意見として、もっと部活動が増えてほしいということを知っている。

寺山委員（磯辺第二中学校保護者会代表）

まだ、保護者全体に意見を聞く機会は持っていない。役員会では、今のところ大きな意見は出ていない。「統廃合については、これから磯辺地区で協議する段階になっている」と伝えているが、保護者からは、「教育委員会から提示された案のとおりになるのだろう」、「もう決まっているのではないかと考えていた」という声もある。また、中学校は3年間だけなので、（兄弟姉妹がなく）卒業したら中学との関わりがなくなるという方も多く、その場合意見を出しにくいということもあるのではないかと思う。今後は積極的に考えてもらえるようにしていきたいが、このような保護者の状況が一つの問題ではないか。統合の方向性が決まってから思いもよらないような意見が出てくるのではないか、気がかりである。方向性を決める段階などで教育委員会は、協議会や委員任せではない、丁寧な責任ある対応（説明会など）をしていただきたい。学校の現状は落ち着いていると思う。各学年3学級が保てており、特に大きな問題もなく、先生方ががんばってくださっていると思う。部活動が少ないとは思いますが、単純に学校規模を大きくすれば解決する問題でもないのではないか。中学生は高校受験があるので、教員の配置、統合前後の部活動のケアなど調整しなければいけない問題が多いと思う。

石塚議長

「自分の子ども」ではなく、「将来の磯辺地区」を考えてほしい。

橋爪委員

現在、磯辺第三小の子どもたちは大きな道路を渡らずに通学できているが、高浜第二小の子どもたちの中には、松風通りを渡らなくてはいけない子どももいる。

松岡委員

松風通りについては、セーフティウォッチャーの方に見守っていただいております、押しボタン式信号もある。小学校1、2年生も問題なく渡れている。そんなに問題はないのではないかと。高浜第二小の保護者は、通学路の安全性よりも、どこの中学校に通学するのかを心配している。

村上委員

磯辺地区の学校間の交流はあるのか。

西村委員

磯辺第二小と磯辺第四小は交流がある。

篠原委員

話し合いの結果によっては、統合を中止することもあり得るということだが、この協議会にそのような権限があるのか。

石塚議長

地元代表協議会で合意形成されないと統合はしない。そういうことではないか。

篠原委員

早く決めてもらいたい。

石塚議長

地域の方と保護者の方の意識や考え方のずれはかなりあると思う。

橋爪委員

過去に松風通りで事故があり、その後押しボタン式信号が設置された。実際に子どもの送り迎えをしている保護者もいる。小さい子は押しボタンを押しているが、小学校高学年の子は信号が赤でも渡ってしまい、危ないと感じている。親の見てないところで子どもがどのような行動をしているか、知る必要があるのではないか。

吉岡委員

通学路の危ない箇所と通学距離とは関係がないだろう。そろそろ具体的なシミュレーションによる検討が必要ではないか。

西村委員

小規模がよいとか大規模がよいとかいうような、学校の規模についての話し合いがまだ必要ではないか。

村上委員

戦後60年は教育改革の歴史である。いずれの改革でもメリットもデメリットもあった。統合前と統合後で、メリットもデメリットもあるだろう。プラスマイナスしてプラスが多くなるようなよい方向にもっていくべきである。「よい、悪い」だけで話をしていては、二項対立で協議が進まない。

山崎委員

無駄になるかもしれないが、いろいろな意見を出し合って話し合うことは必要だろう。皆、所属しているところの代表としてこの協議会に参加しており、個人の意見では発言できない。時間をかけて互いの意見を論じ合う必要があると思う。

大浦委員

「小規模校がアットホームでよい」というのは、親から見た意見なのか、子どもの意見なのか。おそらく親の意見ではないか。子どもの将来を考えたら、ある程度の人数がいる中でいるような人間と出会える方がよいのではないか。

西村委員

アットホームでよいというのは子どもの意見でもある。

石毛委員

可能であるのならば、子どもの意見が聞きたい。例えば通学路についてどのように思っているのかなど、聞く必要があるのではないか。

吉岡委員

通学路は千葉市内にもっと危ないところはある。「ここ（磯辺地区）だけよければ」という考えはよくない。将来を担う子どもたちにはいろいろな経験をさせる必要があるのではないか。

石毛委員

子どもがどう考えているかは想像になってしまう。実際に子どもたちがどう感じているか、聞きたいと思う。

石塚議長

第一次学校適正配置の取組みを知らない委員もいるので、ここで一旦、事務局から第一次の取組みも含め、これまでの経緯を説明していただいた方がよいように思う。

事務局

第一次の取組みにおいてこの地域では、磯辺第二小と磯辺第四小、高浜第二小と磯辺第三小という統合対象校をあらかじめ示し議論していただいたが、本で行われているのとほぼ同じような意見が出された。この協議会は、統合の賛否をすぐに決めるのではなく、子どもたちにとってよりよい教育環境とは何かということを話し合ってもらう場である。第一次の取組みで一番問題になったのは、通学路についてである。他には、統合後の地域コミュニティの問題、小学校だけの統合でよいのか、統合しても小規模のままではないか、という意見が多かった。このような第一次での取組みを踏まえ、第二次学校適正配置検討委員会の答申を受け、「学校適正配置実施方針」を示した。方向性として、適正規模が望ましいというのが教育委員会の意見である。また、適正規模化を図っていく上では、学校規模だけではなく、学校の位置や地域コミュニティとの整合が大切であり、統合後も小規模校のメリットを活かしていきたいと考えている。地元代表協議会で話し合っていた中で、今は統合の課題が見えてきている段階である。解決しなければならない課題が見えてくることにより、その課題への対応を示していけば、先に進めるのではないかと。協議していく中で、統合後が具体的にどうなるのかが見えづらいのであれば、統合後のシミュレーションを示していきたいと思う。

西村委員

「小規模校のよさを活かしながら適正規模にする」とは具体的にどういうことか。

事務局

学校の規模と学級の人数は別の問題である。小規模校は一学級当たりの人数が少ない場合が多いということで、小規模だから少人数というわけではない。小規模校でも学級人数が多い場合はあるし、また学級の人数が多くなれば二つに学級が分かれることもある。ただ、平均すると小規模校は少人数学級が多く、先生が目が行き届いているといわれる。しかし、子どもたちにとっての望ましい教育環境とは、少なくとも1学年に2学級はある適正規模の学校だと考える。そこで、統合後、1学級当たりの人数が多くなってしまいう場合に、小規模校のメリットであるきめ細かな指導を可能にしていくためには、どのような対応をしていくか、ということが課題になってくる。現行でも統合増置教員や少人数加配教員等の配置があるが、「実施方針」では、統合後の環境変化に対応するため、さらに非常勤職員等の配置を検討していくことを示している。「小規模校のよさを活かしながら適正規模にする」とはそういうことである。

西村委員

今の説明は少規模校のメリットを活かしていくことではないのではないか。

事務局

小規模のメリットは何と考えるのか、教えていただきたい。

西村委員

今わからないので、考えてくる。

寺山委員

なんとなく議論がかみ合わないのは、一般論でメリット・デメリットを論じられても、実際の保護者が感じている小規模校のよさとは一致しないからではないだろうか。保護者は、「小規模校でもよい教育を受けている」と思っているので、「小規模校は悪く、適正規模校がよい」と言われると、受け入れ難いのではないか。一般論でよいか悪いかを話していても話し合いが進まないだろう。「実際に磯辺地区ではどのようにしたいのか」ということを考えていかなければならないのではないか。

中学校について考えてみると、学級数や生徒数が減ると、先生や部活動が減る。いま磯辺第二中は1学年3学級であるが、これが少ないかどうかはわからない。一般的には少ないのかもかもしれないが、中学校が統合した場合、1学年5、6学級になるだろうと推測するが、それ以上になることもありえるのではないか。そうなった時、現在の磯辺第二中の教育環境が保てるかどうか不安である。現在、磯辺第二中では校長先生が生徒一人ひとりと面接をされている。今の学校規模だからできることだと思う。規模によりやり方は色々あり、それができないからいけないということではないが、一つの現状である。1学年8学級という学校に子どもが通っている保護者の話を聞いたことがあるのだが、これは多いと思う。磯辺地区で適正配置を進めた場合のシミュレーションを出してもらおうと、もっと話が進められるのではないか。

志村委員

適正規模にしておくことは賛成である。花島小の教員数についてだが、増置教員の配置がなければ、教員数は減っていることになるのではないか。統合により教員が減るのは不安であるので、その対応についての考えも聞きたい。

事務局

これまでは、一般論として学校の適正規模化について話し合っていた。今後は、磯辺地区としての具体的な学校の適正規模化について考えていく必要があるのではないか。次回は、小規模校のよさを活かしていく方策を教育委員会がどの程度示していけるかも含め、具体的なシミュレーションを提示させていただいて、それをもとに議論していただきたいと考える。